

## サントリー音楽賞に妹尾河童氏特別賞に江戸英雄氏が選ばれる

第12回(昭和55年度)サントリー音楽賞は3月2日、東京・赤坂のサントリービルで開かれた選考会で、舞台美術家の妹尾河童氏に決まった。

また、特別賞に昨年(11月20日から12月3日)東京文化会館で開かれた第1回日本国際音楽コンクール(ピアノ部門)の会長を務めた江戸英雄氏(三井不動産会長)が選ばれた。贈賞式は4月14日(火)午後2時から東京・丸の内の東京会館で行なわれる予定。

同賞は、日本の洋楽音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られるもので、賞金は300万円。選考方法は2段階(候補者選考会と受賞者選考会)に分けて実施された。

この日午前10時からの選考会には、芥川也寸志、宮沢縦一、吉田雅夫、門馬直美各氏ら11人の選考委員全員が出席。去る1月15日に、「サントリー音楽賞候補者」としてノミネートされた6人と1団体を対象に選考に入り、長時間にわたる慎重な選考の結果、妹尾氏を選ぶことで全員の意見が一致、さらに江戸氏に特別賞を贈ることになり、引き続き開かれた理事会で正式に決定された。

妹尾氏は、昭和5年神戸市生まれ。藤原義江氏に認められ、舞台美術家を志し、現在までに、数々のすぐれた実績を重ねてきた、また、文化庁在外研修で欧米に学び、伊藤喜朔賞、伊庭歌劇賞などを受賞している。

受賞理由は、30年近くオペラの舞台美術造型に専念し、なかでも、昭和55年に「創作オペラ協会」公演の<虎月伝>(2月、モーツァルトサロン)「東京室内歌劇場」公演の<昔噺・人買太郎兵衛>と<炭焼姫>(3月、同)「二期会」公演の<カルメン>(5月、東京文化会館)同じく「二期会」公演の<ヘンゼルとグレーテル>(11月、日生劇場)「東京室内歌劇場」の<ねじの回転>(12月、第一生命ホール)などのすべてにおいて、独創的で、音楽性にそった舞台空間の機構を生かした造形により、外国に劣らないすぐれた舞台美術を確立したことが評価された。

江戸氏は、第1回日本国際音楽コンクール(ピアノ部門)の会長として、物心両面にわたり強力に推進者の役割りを果たし、また日本ではじめての本格的な国際音楽コンクールを実現させた、この成功によって、日本に対する国際的な関心と信頼を高めることができたとしてその功績が認められた。

受賞の知らせを聞いて記者発表会場に駆けつけた妹尾氏は「とても信じられない、夢のようです。今回の賞は、私一人だけに与えられたのではなく、私と一緒に働いた仲間たちとの共同作業に対し と思う。今後もいい作品が出来るよう努力したい」と述べ、江

戸氏も「日本の文化事業に尽力されている佐治さんに敬意を表わします。今回は、候補になっただけで非常に喜んでいきます」と謙虚に喜びを語った。

(写真説明)

中央の佐治敬三理事長をはさんで、妹尾河童氏(左)と、江戸英雄氏(右)

以 上